

総題 “永遠の命”

教団青年部

2022 年 11 月 19 日～11 月 26 日

第 9 課

題：矛盾する聖句？

執筆者：村上亮

日曜日 金持ちとラザロ

この譬え話は救いは死後には訪れないことを教えているのであって、霊魂不滅を支持するものではありません。「そのたとえ話は、しばしば思われているような、究極の行き先を確かめるよう、人々に警告する死後の様子を描いているものではない。」(N・T・ライト 副読本 65 頁)
救いは「今日」という日が大切なのです。

月曜日 「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」

「イエスは言われた、「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいてあろう。」ルカ 23：43 この聖句を素直に読むと、強盗は死後すぐにパラダイスに行くことと理解してしまいます。しかし、本当のパラダイスは再臨後であり千年期後の事ですので先の聖句の理解では矛盾が生じます。問題点は「今日」という言葉が「楽園にいる」にかかるのか、「言うておく」にかかるのかということです。自然な訳文は「今日、はっきり言うておくが、あなたはわたしと一緒に楽園にいて」です。副読本参照

火曜日 この世を去ってキリストと共に

「わたしは、これら二つのものの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい。」ピリピ 1：23
この聖句は肉体から遊離した魂の存在を肯定しているわけではありません。この聖句の意図は「・・・キリストとのより親しい結びつきの希望」(ピーター・T・オブライエン 副読本 69 頁)を表したものです。

水曜日 捕われていた霊たちへの宣教

「こうして、彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。」1ペテロ 3：19

これは、ノアの洪水で亡くなった霊に対してキリストが宣教を行なっていると理解するものではありません。「霊」とは生きている人に対して用いられている言葉であり、「獄に」とは、罪の奴隷を意味します。「すなわちその聖句は、イエスの死と復活の間においてキリストがなしたことを指しているのではなく、ノアの時代に『存在の霊的な領域において』(あるいは「霊において」)、キリストがなしたことを指しています。」(副読本 71、72 頁)

木曜日 祭壇の下で

黙示録 6：9、10 は忠実な殉教者の命を象徴的に描いており霊魂不滅を表しているわけではありません。「ヨハネが、『祭壇の下に』殉教者たちの魂を見たという事実は、死後の状態、あるいは彼らが[生と死の] 中間状態にあることを意味するものではない。それは単に、彼らが神の御名のもとに殉教した事実を生き生きと描く一手段にすぎない」(ヨハネ黙示録註解書 103 頁、英文、ガイド 69 頁)

・用語解説

第二の救いのチャンス：セカンドチャンスとも言われ、死後の救いの機会があるとする考え。

・ディスカッションのためのテーマ

イエス様と共に十字架にかけられた強盗はなぜ救われたのですか？

聖書の理解と救いについて考えましょう。